

現代ビジネス学部
OHNO Michikuni
PROFILE
職名 現代ビジネス学部 現代マネジメント学科教授
学歴 大阪大学大学院文学研究科 社会学専攻修士課程修了 (1968)
学位 文学修士 (大阪大学、1968)
所属学会 日本社会学会、関西社会学会、日本社会学史学会、日仏社会学会、日本マス・コミュニケーション学会
専門分野 社会学

大野 道邦

おおの みちくに

- 研究課題1 ● フランス社会学を基礎とした、文化社会学の理論的研究
- 研究課題2 ● 日本文化の社会学的分析
- 研究課題3 ● 記憶・規範・表現の社会学

業績

【著書】

『社会学の理論』／「近代と社会学」／有斐閣、2000年5月、共編著。
『フランス社会学理論への挑戦』（『日仏社会学叢書』第2巻）／「フランス社会学の理論的展開とそのアクチュアリティ—デュルケーム、ギユルヴィッチ、レヴィ＝ストロース、ブルデュー—」／恒星社厚生閣、2005年3月、編著。
『文化の社会学—記憶・メディア・身体』／「イントロダクション—文化の社会学のパラダイム／歌舞伎—その諸相と構造」／文理閣、2009年3月、共編著。

【学術論文】

「シンボルと社会—デュルケームの刑罰・宗教論をめぐって」／日本社会学会『社会学評論』第22巻1号、1971年7月、単著。
「フランス知識社会学の展開」／徳永恂編『知識社会学』、東京大学出版会、1976年3月、単著。
「日本の文化—『いき』と『甘え』」／南博編『現代のエスプリ いき・いなせ・間』第141号、至文堂、1979年4月。
「構造とシンボル—構造主義の視点—」／神戸大学社会学研究会『社会学雑誌』第1号、1984年3月、単著。
「構造主義」／新睦人・中野秀一郎編『社会学のあゆみ パートⅡ』有斐閣、1984年11月、単著。
“Durkheim on Structure”／*Kyoto American Studies Summer Seminar: Specialists Conference 1985*、1985年12月、単著。
「『型』としての日本文化—歌舞伎を中心として—」／神戸大学社会学研究会『社会学雑誌』第5号、1988年3月、単著。
「文化と地域—法勝寺歌舞伎をめぐって—」／神戸大学近代発行会『近代』第66号、1989年6月、単著。
「構造主義と構造的な方法」／中久郎編『現代社会学の諸理論』、世界思想社、1990年8月、単著。
「コントの記号理論—記号の進化（分化）—」／神戸大学教養部紀要『論集』第46号、1990年10月、単著。
「コントの記号理論—記号の重層性—」／神戸大学教養部紀要『論集』第47号、1991年3月、単著。
「集合的沸騰とシンボリズム—デュルケームにおける理論的問題—」／神戸大学社会学研究会『社会学雑誌』第10号、1993年3月、単著。
“Collective Effervescence and Symbolism”／W.S.F Pickering(ed.), *Emile Durkheim: Critical Assessments of Leading Sociologists*, Third Series, Vol. II , 2001 (London and New York : Routledge)
「デュルケームにおける表出的シンボリズム—表象的（演劇的）儀礼をめぐって

—」／佐々木交賢編『デュルケーム再考』、恒星社厚生閣、1996年4月、単著。
「シンボル社会学の可能性—還元論的シンボル論から自律的シンボル論へ—」／神戸大学社会学研究会『社会学雑誌』第14号、1996年10月、単著。
「災害の集合的記憶—伊勢湾台風の場合—」／「はじめに」「Ⅰ章」「Ⅲ章1節」「おわりに」／奈良女子大学文学部社会学科『奈良女子大学社会学論集』第4号、1997年3月、共著。
「日本の社会と文化—『前近代』、『近代』、『ポスト近代』の構造的布置—〔ヤギェウォ大学（ポーランド）集中講義〕」／神戸大学社会学研究会『社会学雑誌』第17号、2000年3月、単著。
「記憶の社会学—アルヴァックスの集合的記憶論をめぐって—」／神戸大学文学部紀要第27号『五十周年記念論集』、2000年3月、単著。
「デュルケームと二〇世紀社会学—『専門分化』、『人格・個性』、『集合的沸騰』—」／日本社会学史学会『社会学史研究』第22号、2000年6月、単著。
「文化社会学をめぐる問題」／奈良女子大学大学院人間文化研究科『人間文化研究科年報』第16号、2001年3月、単著。
「集合意識・集合表象・集合的沸騰—デュルケームにおける『社会の脆弱さ』—」／奈良女子大学文学部『研究年報』第45号、2001年12月、単著。
「苦痛の社会学—デュルケーム再訪—」／奈良女子大学文学部『奈良女子大学文学部研究教育年報』第1号、2005年3月、単著。
「名誉の社会学—現代における名誉の可能性—」／奈良女子大学社会学研究会『奈良女子大学社会学論集』第12号、2005年3月、単著。
「社会学のゆらぎまたは再生 —ディシプリンとスタディーズの間で—」／奈良女子大学社会学研究会『奈良女子大学社会学論集』第13号、2006年3月、単著。
「メディア・文化・社会—『歌舞伎』ドラマをめぐって—」／京都橘大学『京都橘大学研究紀要』第33号、2007年1月、単著。
「『社会学史研究』30号の軌跡」／日本社会学史学会『社会学史研究』第30号、2008年6月、単著。
「デュルケームとタルドの対話—メディア論をめぐって—」／日仏社会学会『日仏社会学会年報』第18号、2008年12月、単著。
「ソローキン再訪—文化社会学の巨人—」／京都橘大学『京都橘大学研究紀要』第36号、2009年1月、共著。

【科学研究費・外部研究資金活用】

『歌舞伎の構造と社会構造』／昭和63・平成元年度科学研究費補助金一般研究(C)研究成果報告書、1990年3月、単著。
「伝統的な地域文化の特性と機能—小豆島肥土山歌舞伎をめぐって—」／「はじめに」「Ⅰ章」「Ⅱ章」「Ⅲ章1節」「Ⅳ章1節」「おわりに」／平成9・10年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書、1999年3月、編著。
「記憶と文化—「赤穂事件」記憶への文化社会学的アプローチ—」／「記憶と文化の二重の関係—「赤穂事件」記憶をめぐって—」／平成13・14年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書、2003年3月、編著。

【その他】

『命題 コレクション社会学』／「贈与論 (M.モース)」／筑摩書房、1986年6月、共著。
「地方歌舞伎をめぐって」／社会学研究会『ソシオロジ』第35巻第1号、1990年5月、単著。
「シンボルの特性と機能」／神鋼ヒューマン・クリエイティブ『CREŌ』1991年冬号、1991年1月、単著。
「デュルケーム研究国際会議に出席して」／神戸大学社会学研究会『社会学雑誌』第13号、1996年3月、単著。
「忠臣蔵／メディア／山科」／京都橘大学文化政策研究センター『News letter』第30号、2007年3月、単著。
『社会の構造と変動』／「三状態の法則 A. コント「社会再組織に必要な科学的作業プラン」」／世界思想社、2008年7月、共著。
『社会学事典』／集合的記憶／丸善株式会社、2010年6月、共著。